



むぎの郷 つうしん

January
2013

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
住民の手によって育てられる

はぐるま共同作業所・和の杜・ラ・テール・麦の郷居住福祉事業所
くろしお作業所・くろしお作業所分場・麦ピース
ソーシャルファームピネル・麦の郷印刷・けいじん舎
こじか園・こじか親子教室・第二こじか園
障害者生活支援センター(紀の川・岩出市/和歌山市)
麦の郷高齢者地域生活支援センター・麦の郷総合支援センター
麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



和歌山生活支援センター
「なべ・鍋・NABE」

賀正



はぐるま共同作業所
「えべっさん」



こじか園
「たこあげ」

新年おめでとう 笑門来福

くろしお作業所
「なかまの書初め」

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1). 私たちは、障害のある人のあらゆるライフステージにおいて権利保障(発達保障・労働保障・生活保障など)をめざします。
- 2). 私たちは、障害のある人や支援の必要な子どもから高齢者までの要求の実現をめざします。
- 3). 私たちは、地域住民と地域社会に依拠し、支えられそして支える地域づくりをめざします。
- 4). 私たちは、日本国憲法の理念を守り、発展させ、平和な社会づくりをめざします。さらに、障害者権利条約など国際的な到達点を指針とした実践、運動、研究をめざします。





明けましておめでとございます 今年もよろしくお願ひします

昨年は大変皆さまにはお世話になりました。ありがとうございます。

麦の郷では第3期「笑顔と元気」5力年プランの作成に取り組んでいます。昨年5月のこじか園の悲しいつらい事故を受けて、「生命（いのち）」を守り当事者の立場に立つということを中心にプランの中身を深め具体化の討議をすすめています。

昨年は、第2こじか園の開設でこれまで受け入れができなかった乳幼児健診後の子どもたちの受け入れの枠が広がりました。また、グループホーム（なでしこ、きずな）、高齢期の人を対象とするグループホーム（ばりーホーム2013年1月）がそれぞれ開所しました。地域への出前（アウトリーチ）を主とする事業（ホームヘルプ事業、就業・生活支援センター、訪問看護ステーション）が麦の郷地域総合センターとしてみその商店街に移転し、地域で生活する人々たちへの総合的な支援する拠点となっています。

障害者問題への理解を広めるために、演劇「ふるさとをください」を紀の川市、田辺市、和歌山市の県内3カ所で行い、多くの方に観ていただきました。「ふるさとづくり」をテーマにした実行委員会では、それぞれの地域で活躍している団体のみなさんとの出会いがあり、また、小中高生のみなさんからは600通をこえる「私のふるさと」メッセージが届きました。

そして、国の社会保障審議会の特別部会委員として「生活困窮者・ニート・ひきこもり者」への働く場づくりの提案を積極的に行っていました。

このような事業の展開は、各現場での地道な実践の裏付けとそこからの課題を解決につなげるために必要な広がりです。

麦の郷は、●「生命（いのち）のつながり」幼児期から高齢期までのつながりを考え、●「当事者性」自らの問題を解決するための力を発揮するために、●「地域で独立した生活」地域での生活の姿を描きながら、●「地域協同」自らの力不足を自覚し協同して「まちづくり」をすすめる、●「障害者福祉」障害者権利条約、差別禁止法の批准や諸制度の充実と多くの団体・個人と手を

つなげながら運動をすすめていきたいと思っています。
今後とも皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。

社会福祉法人一麦会・麦の郷

理事長 田中 秀樹



麦の郷年男・年女

今年の抱負



むぎノース 橋本 雅子

6度目の「巳」年を迎えました。生まれ変わる年といえます。

この年になって、欲が深くなってもっと長生きしよう、もっといろいろな事に挑戦しようと思うのですが、身体と頭がついていけないのが現状です。欲を言わず今年も一年健康で過ごせればいいと思っています。

メンバーと楽しい思い出をいっぱい作って個性の華を咲かせ実をつけるサポートができればいいと思っています。年だからと諦めず、この年だからできることを、精一杯頑張ろうと思っています。人生の最終章を色んな事に挑戦し「巳」年を実りある「実」年にまた身につく「身」年にしたいと思っています。



和歌山支援センター 下地 勝則

障害者になって25、6年他人にさげすまされ、差別を受けた。人生、誰が悪いわけではな

いけれど、一人で悩み続けた人生、そこに光をもたらしてくれたもの、麦の郷和歌山支援センターと集う仲間達、そして支えてくれた職員さん達のやさしく見守ってくれるサポート、今までちいとも良い事のなかった半生。でも夢は捨てて居ない。毎年新年を迎える時、今年こそは、今年こそはと思いが一年が過ぎ、年男の年がやって来る。三度目の正直、いや四度目の正直にしたい。学も教養も知識もない僕だけど、そして障害者の僕だけど、仲間がいれば耐えられる。話を出来る友がいれば救われる。スローライフというけれど、今年こそは挑戦したい。僕の書いた小説・歌詞をNHKに投稿してみたい。採用されれば儲けもの。小さな夢だけど、僕はそれで良い。人生死ぬまで挑戦だ。ハッピーニューイヤー！僕は障害者と堂々と言える自分になる事。それが僕の抱負である。障害者に幸せあれ。



こじか園 坂口 恵理

こじか園で働いて4年目になります。こじか園は、周囲の自然と四季折々の行事や風物に触れ、毎日の慌ただしさの中にも、季節の流れをしっかりと感じながら過ごすことができそうです。私の中で、私が今年の抱負に考えたことは、本をたくさん読んで自分の中に吸収することです。小学生の宿題のように恥ずかしいですが、今は必要にかられて数ページ読むだけの現状です。保育や福祉の本を読み、自分の知識を豊かにすること、もっともっと色々な本を読んで、



ほけつと・ひくほけつと 魚住 憲治

気持ち豊かにすることを目標にしたいです。子ども達は、絵本が大好きで、感じる心がいっぱいです。私も負けないようにそんな風に心を磨いて、少しでも自分の世界を広げていきたいと思っています。

第二こじか園学童部放課後等デイサービス事業「ほけつと・ひくほけつと」で、支援学校や地域の学校に通う子どもたちと、毎日楽しく活動に取り組んでいます。気づけば、赤いちゃんちゃんこを着るまで、あと一巡となりました。

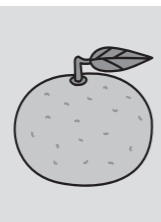
私自身、孫2人のおじいさんになりましたが、いまだに周りの方々に支えられ、助けていただいている生きております。今年も、出合いや縁に感謝を忘れず、年齢に負けない機動力、探究心を心がけます。また、これまでの広く浅い経験も活かし、失敗を恐れず、一日一日を大切に、ゲンキよく前に進んでまいります。



くろしお作業所 土井 麻実

私は、くろしお作業所に来て半年以上が経ちました。

半年経つても未だにわからない事が多いですが、前向きに頑張っています。今年「巳年」という事で「また一つ歳を取

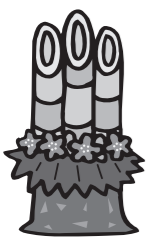


はぐるま共同作業所 坂井 寛

明けましておめでとございます。

昨年の10月末からサイクリングチームに入り一緒に走らせて貰う機会が来ました。でも100km走ったら脚はガクガクオマケに次の日は筋肉痛(笑)

今年100km走っても筋肉痛にならない身体作りが出来ればと思います！今年も宜しく御願ひします。



WDF和歌山障害フォーラムが結成

県下24団体が結集!!

代表に吉田喜代司氏（和歌山県身体障害者連盟会長）を選出。
 ODF大阪障害フォーラム副代表世話人の倉町公之氏の記念講演。
 JDF日本障害フォーラム代表小川栄一氏からのメッセージ。

2年越しのWDF準備が実を結ぶ

障害者週間の12月7日、和歌山の障害関係団体の大きな塊が誕生した。WDF和歌山障害フォーラムの設立である。団体数にして24、和歌山で過去にこれだけの民間の障害関係団体が自主的に手をつなぐ運動があっただろうか。今思えば東日本震災の前日となる2011年3月10日に制度改革和歌山フォーラムを開催して以降の念願である。自立支援法このたたかいを背景として、その機運は高まってきた。設立総会には90名が出席、仁坂吉伸和歌山県知事も駆けつけた。吉田WDF代表は障害者権利条約の批准を目標にした日本障害フォーラムの活動と地方フォーラム結成が進んでいること、制度改革推進会議の提出した障害者基本法、総合福祉法骨格提言、検討中の差別禁止法に触れ、これらが権利条約



祝辞を述べる仁坂県知事 右端は吉田代表

批准の必須要件と報告した。20を超える団体から代表が一堂に会した総会である。規約や役員案、事業計画案など準備事務局からの提案に対して、異論や主張も出て当然のはずだ。しかし、総会の場には何とか一まとまりを作ろうと願う出席者の思いが詰まっていた。足を引っ張るのではなく、背中を押してくれた。形にしてスタートする重要さを全員が共有してくれた。そう感じた。

ODF倉町氏の熱いメッセージ

総会後にはODF副代表で、大阪府精神障害者家族会連合会の会長も務められている倉町氏による記念講演が行われた。大阪でのODFの経過と運動をJDFの設立時期から報告された。和歌山同様、かつて大阪でも一致行動が取れなかった団体が自立支援法このたたかいかや橋下改革に対抗して共同を築いてきたとして、障害者権利条約、JDF、連携と共同行動をキーワードにして語られた。差別禁止法や鉄道駅の安全をテーマにした学習会、近畿全体をまとめる全関西集会の取り組みに触れ、きょうされん大阪支部の活躍も強調された。大阪と和歌山の更なる共同を築きたいと熱く話された。

要求一致のたたかいは歴史動かす

障害者福祉に公益負担を持ち込んだ障害者自立支援法が国会で審議され成立した2005年。わされん（和歌山県共同作業所連絡会）は県内の障害関係団体と歩調をあわせて6月和歌山県議会に作業所補助金増額などを請願した。わされん単独ならば採択が難しい課題も、関係団体全体の力はそれを突破し、全会一致を見た。翌7月には関係9団体主催で和歌山障害フォーラムを開催、県民文化会館を1500名が埋めた。自立支援法施行

で障害の仲間は利用料を払い作業所運営は追い込まれる一方、2008年12月の県議会に関係11団体で県福祉医療制度での重度障害者医療の無償化継続を請願、全会一致を勝ち取り、有料化案は撤回された。関係団体の課題一致での運動によって県議会を動かした事実を私たちは目の当たりにした。2006年10月31日という日は自立支援法成立1周年に当る。以来昨年まで毎年、10月31日は東京日比谷公園で障害者1万人集会、デモ行進を行ってきた。障害者運動の歴史上、規模の大きさ、当事者参加はかつてないうねりとなった。同時に障害や立場を越えた大連携を生んだ。地方でも大連携が生まれ今日のWDFにつながっている。

JDFからのメッセージ

（加藤）

「和歌山障害フォーラムの設立をお祝い申し上げます。障害者権利条約の批准に向けた制度改革を、民間の立場から推進するためには、各地域における力強い取り組みが欠かせません。私たち日本障害フォーラムも、昨日12月6日に、全国フォーラムを開催したところですが、全国各地の団体との連携を今後とも進めていきたいと考えています。和歌山障害フォーラムの今後の取り組みを期待いたしております。」

日本障害フォーラム（代表 小川栄一）

WDF参加予定団体（設立時）

- 1 和歌山県身体障害者連盟
和歌山県視覚障害者福祉協会
和歌山県聴覚障害者協会
和歌山県肢体障害者協会
- 2 和歌山県障害児者父母の会連合会
和歌山県精神保健福祉家族会連合会
- 3

- 4 和歌山県難病団体連絡協議会
- 5 和歌山県精神障害者団体連合会
- 6 和歌山県自閉症協会
- 7 和歌山県社会就労センター協議会
- 8 和歌山県共同作業所連絡会
- 9 和歌山県障害児者施設家族会連合会
- 10 和歌山県社会福祉士会
- 11 和歌山脳外傷友の会家族会和らぎ
- 12 日本てんかん協会和歌山県支部
- 13 和歌山県盲ろうつ者友の会
- 14 和歌山県中途失聴・難聴者協会
- 15 障害者自立支援法基本合意の

完全実現をめざす和歌山の会

- 16 和歌山県介護福祉士会
- 17 和歌山県障害児保育運動連絡協議会
- 18 和歌山県障害児学童クラブ連絡会
- 19 和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会
- 20 和歌山県障害者地域生活支援協議会
- 21 全国障害者問題研究会和歌山支部
- 22 和歌山障害者の生活と権利を守る連絡協議会
- 23 和歌山市障害児者居宅介護支援事業所協議会
- 24 和歌山市障害者支援連絡協議会

WDF役員

代表 吉田 喜代司

副代表 鷺山 佳三

副代表 上野 六宏

幹事 和歌山県精神保健福祉家族会連合会会長

同 和歌山県視覚障害者福祉協会担当者

同 和歌山県聴覚障害者協会担当者

同 和歌山県肢体障害者協会担当者

同 和歌山県難病団体連絡協議会担当者

同 和歌山県精神障害者団体連合会担当者

演劇『ふるさと』

県内3ヶ所公演 大成功!!

6月からスタートした取り組みは、全体実行委員会のもと、公演地ごとに実行委員会体制が組まれました。紀の川実委（まちづくりにかかわる地域の皆さん）田辺実委（地域の作業所の皆さん）和歌山市実委（ふるさと紡ぎ人の皆さん）それぞれに、地域の特徴を活かしながらたくさんの方々に力を発揮していただき、無事公演を終えることができました。



地元出演者の皆さん集合



ロビーに掲示された子どもたちのメッセージ

各地ともに、劇団の皆さんによる素晴らしい演技と地元出演者の熱演、観客の気持ちごとになり、大きな感動が生まれました。誰もがゆたかに生きていることができる「ふるさと」の大切さを実感できる取り組みを支援してくださいました。

（島）

〈和歌山会場よりアンケートをご紹介します〉

◎歌がとてもよかったです。「人のなさに」という部分に泣きました。いつも後ろめたい気持ちで生きているので少し楽になりました。

◎多くの人は「障害者」と聞くだけで少し偏見を持っていると感じます。大変感動しました。同じ人間同士であるのに、仲良くできないという悲しい状況の中、最後には住民と仲良くともに暮らしていける姿に涙しました。（30代 男性 会社員）



感動のフィナーレ場面

◎12月1日（土）粉河ふるさとセンター 入場者600名 地元出演者15名

第12弾 『障害者週間 広がれネットワーク』

紀の川・岩出生活支援センター

毎年12月に那賀圏域の障害児者施設・家族・当事者が集まり「障害のある人が地域で豊かな生活ができる社会を実現するために…」という主旨で、様々なイベントを行っており、今回は「ふるさとをください」の舞台上映を盛り込んだ5つのイベントが開催されました。

11月29日は精神障害者家族学習会として、臨床心理士・SSTリーダーの高森信子先生をお招きし「あなたの力が家族を変える」のテーマで5時間にも及ぶ講演をして頂きました。ご家族、支援者を合わせ40名が集い、参加者一人ひとりの悩みに寄り添ったお話で、心もからだも元気にして頂きました。

12月1日は演劇「ふるさとをください」紀の川会場の上演。舞台と観客席とが一体となり生の演劇から伝わるメッセージが心に響き、感動の涙を流す方も多く「生きる勇気と元気が出た」「内容も分かりやすく、精神障害についての理解が深まった」という声も寄せられました。

12月7日には『みんなの願いを語る会』の主催で映画「星の国から孫ふたり」を鑑賞。その後は恒例の「みんながトークではご家族の願いや思いの丈を語り合いました。また同日夜には福祉職員等研修会として、人間発達研



「広がれアート、なんでもご自慢いってん展」

研究所長の加藤直樹さんによる講演で、福祉施設で働くことの意義についてお話し頂きました。制度の変革に伴って起こる矛盾や疑問が渦巻く中、今こそ本当に大切なことは何なのか？発達保障の観点をふまえ福祉について改めて考える機会となりました。

最後は昨年が続いて2回目となった『広がれアートプロジェクト』12月14日15日の2日間にわたり、「なんでもご自慢いってん展」と題し、作業所で働く仲間や通園施設のごもたちの絵画や陶芸など、個性豊かな作品が会場いっぱいに彩られました。両日あわせて約300人もの方にきて頂き、アート作品を通して地域の人の交流がうまれ、みんなの心があたたまる素敵な空間でした。

これらの企画で出会った人とのつながりを大切に、今後もみんなで集い、感じ、語り合い取り組んで行けたらと思います。(森橋)

毎日の発表を喜びましょう!!

日々の成果を発表しよう!!

昨年11月25日から8日間、「ほけつとアートフェスタ2012」と題し、美園商店街にあるアートサポートセンターRAKUで、子どもたちが活動で制作した作品を展示しました。

「ほけつとアートフェスタ2012」は、子どもたちの日々の取り組みの成果を披露する場を保障したいという気持ちから、RAKUや美園商店街のご協力をいただき、開催の運びとなりました。初日にオープニングイベントとして、

クリスマス会



～お作業所

メリークリスマス!! 12月19日、なかまが楽しみにしていたクリスマス会が開かれました。10時！スタートは初めの挨拶から始まり、点灯式、乾杯、会食へと続きました。



クリスマス会前半は昨年から交流させて頂いている神戸市の社会福祉法人かがやき神戸「べりいと」のなかまたちをくろしおにお招きして、クラウン(王冠)パフォーマンスを披露して頂きました。初めて見るクラウンパフォーマンス。軽快な動き、「コミカルな話術にくろしおのなかまたちも笑いあり、ふれあいありのパフォーマンスに引き込まれていきました。「べりいと」のなかまたちも年間60回〜70回公演しているだけあって笑いのポイントもしっかりつかんでいて、上手にくろしおのなかまの心をつかんでいたように思います。

後半は各班の出し物を披露。各班とも練習を積んできた成果が出て、素晴らしい出し物を披露してくれました。その後は恒例のプレゼント交換へと続き、自分が買ったプレゼントを開けて、お互い見せ合いながら喜んでいました。

今回もなかまの代表として実行委員(6名)さんがクリスマス会の立案や構成を考えて、なかまが楽しめるクリスマス会を企画してくれたことに感謝したいと思います。(田中)

城崎旅行

ラ・テール

みんなが楽しみにしていたラテール旅行に今年も行ってきました。一日目は天橋立でワンピースでも果敢に股覗きに挑戦！いい天気での青と海の碧のコントラストがとてもきれいで、その情景が目には焼き付いています。

城崎に着いて、みんなで街を散策しました。古びた木の黒と壁の白が落ちついた古き良き情緒を醸し出していて、寒かったです。浴衣姿の人も歩いている、あぁ来て良かったなって思いました。

温泉もじっくりしていて、みんなで入った露天風呂は本当に気持ちよくて、日頃の疲れがスーッと消えていくようでした。

ラテール旅行も、今年で三回目、だいぶみんなの事も分かっています。仲間もちょっとずつ良くなり、回を重ねるごとに、だんだんリラックスして旅行を楽しめるようになってきてうれしく思っています。ありがたい事です。来年の旅行も楽しみです。(M・H)



中高生による和太鼓演奏、展示作品の発表、また、職員演奏に合わせたみんなの歌い合わせ。イベントはまず、呼び込みの和太鼓で幕が開きました。本番は堂々とした姿で力強い鼓動を商店街に響かせて会場を沸かせました。



作品発表では、子どもたちは自分の作品を手に、ステージで元気に発表しました。陶芸作品や立体アート、絵画や染色アート、ちぎり絵や書道など、どの作品も個性豊かでした。子どもたちの思い入れもひとしおで、自信たっぷりの表情を見ることができました。

最後は、職員の演奏に合わせてみんなで大合唱!! 最初は恥ずかしながらも舞台上でマイクを手に歌う子、手作り楽器でリズムをとる子もいたり、オープニングイベントは楽しい雰囲気の中、幕を下ろしました。

今回が初めての開催となった「ほけつとアートフェスタ」。多くの方に会場いただきました。オープニングイベントの会場にきた子どもたちの中には、友だちの様子を見て、発表に加わりたいもの、あと一歩踏み出せない子も、次回のイベントではステージに参加しやすい工夫も考えていきたいと思っています。また今後も、子どもたちの発表の場として、「ほけつとアートフェスタ」を継続していきたいと思っています。(若狭)

なかまの旅は、高知へ

はるま共同作業所

12月16日から1泊2日が高知へ行ってきました。なかまは、何週間も前から「旅行へ行く服買ったよ!」と気分も盛り上がり、旅行への期待で胸いっぱいなのが伝わってきました。



私は、なかまと一緒に仕事をするようになってもうすぐ1年になります。今回は初めての旅行でしたが、お互いに何年も一緒に働いているなかまも職員も多く、その絆は深く感じられました。観光名所で自然と寄り添い、階段や段差のある所では、なかまは職員を信用し、身を任せてくれる様子を見ていて微笑ましく思える場面がたくさんありました。

旅館では、なかまと職員が一緒に大浴場で背中を流し合いました。露天風呂で、夜景に向かって「おーいっ」と裸のまま、テンション高く喜んでいたなかまが印象的でした。

2日目、桂浜で坂本龍馬像を見たなかまは「思ったより大きい!」来て良かった。」と笑顔いっぱいでした。

私はこの旅行を通じて、1人の人間としてわかる事の大切さ、心のふれあいの旅に出かけたのだなあという思いがしました。この旅行をきっかけに、また新たな気持ちで、なかまと作業に取り組みたいです。(西谷)

第12回和歌山県作業所問題研究交流集会のご案内

- 日時：2013年2月3日(日) 10時～17時
 - 場所：和歌山県立情報交流センター Big・U
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9
電話 (0739) 26-4111
 - 内容：【午前】
記念講演「障害者権利条約について」
講師 未定
映画 「どんぐりの家」上映
【午後】分科会
1. 入門講座 2. 発達障害
3. ホームによる高齢化、重度化の実践について
 - 経営 5. 給食 6. 相談支援
 7. 仲間の交流 8. 防災
 9. 発達保障(重度、高齢、多機能型事業など)
 10. 一般就労システム
 11. メンタルヘルス
 12. 一般相談支援(地域移行・相談支援)
4. 参加費：一般2000円・仲間100円・介助者500円
5. 申込〆切：1月18日(金)
※お問い合わせ
和歌山県共同作業所連絡会(わされん)
電話 (073) 402-1181

障害者アート～こころひびきあうフェスティバル～

日時：2013年3月10日(日) 13:00～16:00
会場：和歌山市あいあいセンター みらい文化ホール&会議室(和歌山市小人町)
参加費：無料
各事業所や福祉施設、個人の皆さんが取り組んでいる音楽や表現活動の発表の場です。こころが、響きあって元気になれますよ！是非おいでください。
<文化ホール>
出演予定：ピュアハート・クラウディハーツ・青年学級すばらしき仲間たち・アポロッサム・麦の郷みんなでおどり隊
<会議室>
創作活動の展示 ※お問い合わせ：共助のまちづくり協会 TEL 073-427-3313

麦の郷の「要」を支えるために、頑張っています

麦の郷各事業所と本部の事務は、9名の職員で担当しています。

昨年度から、新人職員5名を迎えることで経験者も新鮮な気持ちで業務に臨み新たなチームワークをつくることができました。月1回のミーティングで各部署の状況を共有し、それぞれの

課題が全体の経営会議に反映できるよう組織体制づくりをすすめています。

事務所メンバーと主な担当部署を紹介します。

(坂口 圭)

氏名	主な担当部署			
坂口 圭子	本部	居住福祉	けいじん舎	ホームヘルプ
中野 優子	こじか園	こじか親子	ピネル	麦の郷印刷
島 久美子	訪問看護	居宅介護支援		
仁井村 和子	ラ・テール	むぎピース	和歌山支援	つれもて
東 紗稚子	くろしお			
池本 恵子	はぐるま	くろしお分場		
榎本 悦子	和の杜	紀の川・岩出支援		
坂口 幸代	第二こじか			
永井 秋男	労務関係			

笑顔と活気にあふれる事務所本部に、是非お立ち寄りください

助成ありがとうございました

はぐるま共同作業所 製パン部

この度和歌山県様より平成23年度障害者自立支援基盤整備事業(備品整備)補助金をいただき、製パン用オーブンの買い替えが完了致しました。

これまで使用していたオーブンは老朽化がすすみ、一部機能が使用不可能となっていました。新しいオーブンできめ細かい設定が可能となり、今迄以上においしくきれいにパンが焼けるようになりました。ありがとうございました。

第36回 障害者家族のつながいちぬめる

文化祭

「つながるつながるつながるつながる」



2013年
3/3日
AM10:00~PM3:00



和歌山県立体育館

〒640-0192 和歌山県和歌山市大倉町1-1-1

入場無料 参加費100円 300円

●バザー・フリーマーケット

●文化祭

●自主製品・作品展示

●お楽しみ会

●お楽しみ会

●お楽しみ会

●お楽しみ会

●お楽しみ会

●お楽しみ会

●お楽しみ会

主催 和歌山県障害者家族のつながいちぬめる実行委員会

協賛 和歌山県立体育館/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校

協賛 和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校/和歌山県立和歌山高等学校